



Library Liébana

2023年1月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトゥス写本】

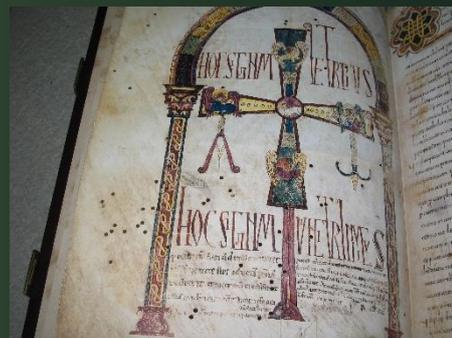
ベアトゥス写本は10世紀から13世紀にかけて制作された完本写本が22点残存していますが、その中で10世紀末ごろに制作されたものが6冊と一番多いです。今月はその中から4冊を展示します。



(975年 ジロナ写本)



(10世紀第4四半期
ゴーリャ写本)



(10世紀第4四半期
ウルジェイ写本(前半))



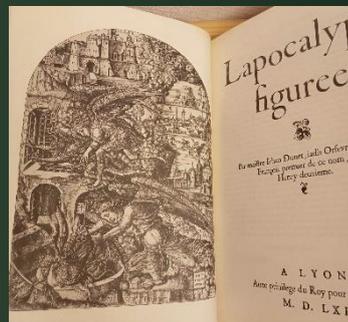
(10世紀末 エスコリアル写本)

【ベアトゥス以前の黙示録写本】



トリーア黙示録写本

【以後の黙示録写本】



Apocalypsis Johannis
ジャン・デュヴェ黙示録版画集

【中世の聖書写本】



道徳聖書(教訓聖書)
(Bible Moralisee)

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
毎週日曜日 10:30~17:30

1月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)



H.P.



Instagram



							1月
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31	1	2	3	4	

6日(金), 26日(木)は
午後からです。

ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月のベアトゥス写本の挿絵

【10世紀後期の写本】

残存するベアトゥス写本を時期的に見ると10世紀後期に多くの写本が制作されています。

10世紀中頃	2
10世紀後期	6
11世紀前半	2
11世紀後半	3
12世紀前半	3
12世紀後半	4
13世紀前半	2

今月はその中から4冊を紹介します。

【ジローナ写本】

114点の挿絵はほぼ完全な姿で残っており、写本の大きさも縦が約400mmもあり、12世紀以降に制作されたマンチェスター写本などを除けばウルジェイ写本と並び当時最大の写本でした。

挿絵は、イスラムの影響を受けたモサラベ風の建築物や服装などが多くみられる。幾何学的な形状、豊かな色、装飾された敷地、様式化された人物といった形に、イスラム美術と装飾的伝統が混ざって表現されている。

写本の最後の署名から、976年7月6日におそらくタバラの修道院で完成しました。挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。エンは女性名で修道女と考えられます。このことから女性も写本の制作に参加していたことがわかります。(当時の修道院は男女が厳密に分けられていなかった)

【コゴーリヤ写本】

途中まで10世紀半ばに書かれ、その後200年近く中断された後12世紀第1四半期に制作が再開された写本。

そのために49点の挿絵がありますが、前半はモサラベ様式の画風で、後半はロマネスク様式となり、挿絵の画風が大きく変わっています。

レコンキスタの進展の影響で、モサラベ様式が薄れたのだと思います

【ウルジェイ写本】

10世紀後半にスペイン北部のアストゥリアス東部で作られた。ロマネスク様式のモサラベ風の90の彩色挿絵が描かれています。キリスト論の系譜の序文とダニエル書の解説とともに、黙示録に関するベアトゥスの註解テキストが書かれています。

【エスコリアル写本】

エスコリアル写本は950年頃にサン・ミジャン・デ・ラ・コドリーヤ修道院で制作されました。ここではほぼ同時期にいくつものベアトゥス写本が制作されました。マドリード写本とほぼ同じ大きさで、151葉に52点の挿絵が描かれています。マドリード写本ほどではないが、明らかな切り取り跡が4か所あるのは残念です。また、挿絵がページ端で途切れている絵もあることから、もとはもう少し大きかったものを裁断したと思われる。

今月中世彩色写本

【トリーア黙示録】

9世紀初期に制作された、残存する挿絵入り黙示録写本で一番古い写本。

テキストと挿絵は、見開き頁に互いに向き合って配され、一葉ごとに全頁大の挿絵が、fol.20vまでは裏葉に、hol. 21r以降は表葉に施されている。《トリーア本》のテキストは「ヨハネの黙示録」ウルガタ訳ラテン語のテキストのみとなっている

【ジャン・デュヴェ黙示録版画集】

黙示録の木版画ではDürer(1471-1528,ドイツ)が有名ですが、ほぼ同時代に生きたジャン・デュヴェは、フランスの金細工師、彫刻家であり、版画家としても活躍しました。

Dürerが木版画で「黙示録」を発表したのは、1497-1498であり、それに張り合っ制作されたようですが、そのスタイルは大きくことなっています。